

戦争畢 其五

戦争をはる 其の五

灰韻

樊籠壞卒慘難裁

樊籠はんろうの壞卒くわいそ 慘 裁たち難し

相語故山應作灰

あひ語る 故山 まさに灰なるべしと

有命誦言終戰詔

命あり 終戰の詔を誦言せよと

肝銘萬世太平開

肝銘す 萬世 太平を開かんと

語注 樊籠

鳥かご、自由なき状態 壞卒 敗れし兵

誦言

經典の語句の暗誦 肝銘 心に刻む

九月に大本營、十一月に陸海軍省廢止となりぬ。余らは階級章を附けしまま、敗戦前と同じく宮城遙拜、軍人敕諭奉唱も續けぬ。捕虜なるに、朝夕、中國人の耳に届く狀況にて

「一つ、軍人は忠節を盡すを本分とすべし」

と唱ふるはをかしとなりしや。兵團長の命令ありて終戰詔書に替ふることとなりぬ。半年も奉唱せしかば叡慮のほどに感銘するに至りぬ。

次いで學校を作れてふ命令ありて余は日本史を教ふこととなれり。GHQは學校教育の百八十度的轉換を企て、教科書の記述のうち軍國教育の一端を擔ひしとされし箇所に墨を塗らせりとか。閣下によれば、天孫降臨より來れる日本民族の優秀性抹殺を企圖せしものにして、このままにては日本神話も忘卻されん。學校にて教へざれば親から子に傳ふべしとなりぬ。

翌年の元旦に「新日本建設に關する詔書」の出でぬ。天皇の人間宣言てふ日本民主主義の原點となす人もあるとや。即ち

「朕と爾ら國民との紐帶は、終始、相互の信賴と敬愛とに依りて結ばれ、單なる神話と傳説とに依りて生ぜるものに非ず。天皇を以て現御神あきつみかみとし、且、日本國民を以て他の民族に優越せる民族にして、ひいて世界を支配すべき運命を有すとの架空の觀念に基くものに非ず」

とさる。此の詔書を傳達せし後、中隊長嘆息して「これにて日本人の魂は抜かれぬ」とつけ加へしが、大隊長より閣下の慨嘆を聞かされしならんか。